

栃木県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画の概要

趣旨

- ・「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づく県計画（令和8（2026）年度～12（2030）年度の5年間）
- ・重点項目 ①重要な地域資源である堆肥活用の推進 ②家畜排せつ物の処理施設整備 ③畜産環境問題への対応 ④地球温暖化対策

将来像 ～県内の重要な地域資源である堆肥活用の推進～

重要な地域資源である堆肥の価値を高め、広域流通の仕組み作り等により活用を推進し、持続的な畜産経営を実現する

現状と課題

【現状】

- ◆堆肥生産量の増加（R6：151万t）
- ◆堆肥の流通割合は増加傾向（R6：44%）
- ◆自給飼料生産面積は増加傾向
- ◆コントラクター数や作業受託面積は増加
- ◆環境問題は悪臭関連が約6割を占める

【課題】

①堆肥活用の推進

- ・堆肥生産量に対して流通量が少ない
- ・流通拠点の整備が不十分
- ・飼料生産組織等の育成

②家畜排せつ物処理施設の老朽化

- ・老朽化した施設の修繕、更新が必要
- ・規模拡大による能力不足

③畜産環境問題の減少に向けた取組

- ・悪臭関連の対策が必要

④地球温暖化対策

- ・畜産分野でも取組を進める必要

目指す姿

★耕種農家のニーズに合わせた堆肥生産による利用拡大

★堆肥、飼料、副資材の一体的な広域流通拡大

★耕畜連携の推進による粗飼料自給率100%の達成

★畜産経営に起因する苦情発生要因の低減

★堆肥処理方法の変更による温室効果ガスの削減



重点項目

①堆肥流通促進及び利用拡大

- ・耕畜連携の推進による自給飼料増産及び堆肥利用拡大
- ・広域流通に向けた仕組み作り及び拠点整備
- ・耕種農家が核となった新たな飼料生産組織等の育成
- ・堆肥の高品質化・ペレット化等の推進

②家畜排せつ物の処理施設整備

- ・飼養規模に応じた施設の整備
- ・堆肥の利用拡大に対応した機械整備

③畜産環境問題への対応

- ・市町、生産者団体等と連携した地域で問題解決に取り組む体制の構築
- ・臭気の見える化手法による対策推進

④地球温暖化対策

- ・温室効果ガス排出の少ない処理方法への転換促進
- ・Jクレジット制度やみどり認定制度の活用推進

技術開発の促進

- ・耕畜連携推進堆肥化技術の開発
- ・畜産由来環境負荷低減技術の開発